



TITLE:

戦時利得税ノ諸例

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. 戦時利得税ノ諸例. 経済論叢 1917, 5(2): 305-309

ISSUE DATE:

1917-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127238>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第五卷 第二號

大正六年八月一日發行

論 說

營業稅ノ賦課ス（營業ノ範圍）……………法學博士 神戸 正雄

純粹資本（資金）ト資本財……………法學博士 河 上 肇

中壽ノ説（三）……………法學博士 財部 靜治

現代の保險ノ成立（三）……………法學士 小島昌太郎

時事問題

製鐵業ノ獎勵……………法學博士 戸田 海市

支那ノ裁厘加税問題……………法學士 木村増太郎

雜 錄

歐洲戰亂ノ南米ニ及ボ影響……………山本美越乃

ゆごすらう民族運動（二）……………米田庄太郎

福島山形二縣ノ製絲業……………法學士 河田 嗣郎

臺灣人口統計十年報ヲ讀ム……………文學博士 内田 銀藏

戰時利得税ノ諸例……………法學博士 神戸 正雄

學界ノ巨人しゅもらー逝ク……………法學博士 神戸 正雄

戰時利得税ノ諸例

神戸 正雄

(一)緒言 戰時利得税ニ就テハ、諸多ノ雜誌ニ同僚及其他諸君ノ詳細ナル報告ガアリ、自分亦タ昨年八月號ノ本誌ニ若干ノ紹介ヲ爲シタ所デアル。其レデ此税ニ關スル參考資料ハ日本ノ文書ニモ可ナリ増加シタ。茲ニ別ニ予ガ最近ニ讀シタえこのみつくじゆーなる(一九一七年三月)中ノすたんぶ氏ノ Taxation of excess profits abroad ト題スル論文ノ大要ヲ紹介シテ、此好問題ニ對スル一參考資料ヲ加ヘヤウト思フ。

(二)本税採用ノ時 (A)一九一五年 (イ)五月—丁抹及瑞典 (ろ)十一月—伊太利 (は)十二月—獨逸(準備法) (B)一九一六年 (い)四月—奧土利 (ろ)

五月―露西亞及加奈陀 (は) 六月及七月―和蘭、佛蘭西及西班牙 (に) 八月―にゅーじーらんど (は) 九月―瑞西及合衆國 (C) 濠洲案ハ今尙討議中 (三) 本稅賦課ノ及ブ時 (A) 一九一四年八月一日マデ週ルモノ―伊太利及佛蘭西 (B) 一九一四年九月一日マデ及ブモノ―埃土利 (C) 一九一五年ニ於ケル諸日附後ニ生ズル利得ニ課スルモノ―西班牙、瑞典、丁抹、濠洲、加奈陀及瑞西 (D) 一九一六年ヲ第一年トスルモノ―露西亞及合衆國 (E) 第一賦課年ヲ一九一六年四月一日ニ初マル年度トスルモ、其實ハ一九一五年四月一日ニ初マル年度ノ課稅所得ニ課スルコトナリ、其ハ更ニ一九一五年三月三十一日ニ終ル年度ノ利得ニ外ナラズシテ、結局多クノ場合ニ戰前月ヲモ含ム所ノ營業年度ノ其ナルヘキモノ―にゅーじーらんど (F) 第一賦課年ヲ一九一四年八月ヲ含ム年度トスルモノ―獨逸 (G) 一九一四年一月一日以降課スルコトナルモ、一九一四年八月一日前ニ儲ケタリト證明サルル増利ハ免除セラルトスルモノ―和蘭

(四) 戰前ノ正常標準ノ定メ方 (A) 戰時ノ超過利得ヲ計ル標準年トシテ (い) 或ハ戰前ニ終ル二年ノ平均トシ (ろ) 或ハ賦課ガ一九一四年ニ初マラザル處ニテハ一九一三及一九一四年トスル。 (は) 佛蘭西、和蘭及丁抹デハ戰前三年ノ平均ヲトリ、 (に) にゅーじーらんどデハ三年平均ト三年中ノ二年ト三年中ノ一年トノ選擇ヲ與フル。 (ほ) 獨逸デハ戰前五年中ノ最良年ト最惡年トヲ除キテ殘リ三年ノ平均トスル。 埃ニテモ會社ニツキ之ヲトル。 (へ) 獨リ加奈陀ニ至テハ利得ノ戰前標準ヲ定メナイ。 併シ資本ニ對スル利益率ノ標準ヲトル。 (B) 殆ンド凡ベテノ稅法ハ標準年中低キ利益率ヲ有シタル營業ノ爲メニ、一定ノ利益率ノ選擇ヲ規定スル。 新規開業ノ營業ニモ同様ノ標準ヲ與フ。 斯カル利益率トシテハ (い) 丁抹、瑞西、和蘭及以前ノ獨逸ハ五分トシ、 (ろ) 今ノ獨逸、佛蘭西并ニ埃土利ハ六分、 (は) 西班牙ハ七分、 (に) にゅーじーらんどハ七分五厘、 (ほ) 露國及伊太利ハ八分 (へ) 濠洲ニテハ最初ノ提案ハ會社五分、箇人六分デアツタガ、原案トナツテ現ハレタトキニハ

會社六分箇人七分ニ引上ゲラレ、今ハ七分、八分トサルヘキ形勢デアル。(2)加奈陀デハ過去ノ利得ノ不明ナル處デハ會社七分、箇人一割ヲ標準トスル。

(五)課税利得ノ範圍

(A)課税利得ノ生ズル、營利

分科ニツキ制限ヲ爲スモノガ少クナイ。(1)加奈陀、伊太利及濠洲デハ農業ヲ除外シ、(2)加奈陀デハ牧畜、濠洲デハ果實採培モ免除セラレ、(3)濠洲デハ礦山業モ免除セラルル。(4)加奈陀デハ又生命保險會社及株ノ九割ガ州又ハ市町村ニテ所有セラルル會社ガ免除セラレ、且ツ事業ノ二割ガ軍需品製造ナルモノノ外、一萬磅以下ノ資本ノ事業ヲモ免除スル。(5)濠洲トにゆーじーらんどデハ俸給ト賃金トガ免除セラルガ、露西亞デハ却テ官職ノ變更ニ依ラズシテ生ジタル俸給ノ増加(五百るーぶる以上)ヲ課スル特別規定ガアル。(B)利得ト戰爭トノ關係ニツキテハ(1)初メニハ戰爭ノ結果トシテ生ジタル利得トナツテ居タ。例之ぶれめん案ニテハ反證ナキ以上ハ夫ノ超過利得ガ戰爭利得ト見做サルコトトナ

リ、丁抹デハ利得カ戰爭ニ歸スヘカラザルトキハ、課税スヘカラサルモノトナリ、瑞典デハ此税ヲ以テ戰爭ニヨリ齎ラサレタル狀態ノ結果トシテ生ジタル事業上ノ所得ニ課スルモノトシタ。但ダ納税者ハ反證ヲ以テ救済ヲ求ムルヲ得ルコトトナル。(2)其後之ニ關スル一般ノ考ガ變化シ、どれすでんノ商業會議所先ツ右ノ如キ狹キ見解ニ依ル實行ノ困難ヲ説キ、獨逸ノ戰時利得税案ノ理由書ニモ同様ノコトガ述べラレ、佛國ノモ初メノ案ハ狹カツタガ後ニハ擴張セラレ、一般ニイヘバ新シク探ツタノハ廣ク戰時ノ超過利益トイフコトトナツテ居ル。タダ例外ガ二ツアル。一ハ和蘭ノデ、戰爭狀態ノ直接又ハ間接ノ結果トシテ得ラレタル増益ニシテ反證ノ擧ラザルモノニ課スルコトトシ、自然増收ハ課税外トスル。他ハ米合衆國ノ軍需品製造者税デ、此ハ明カニ戰爭ノ結果ニ屬スル特別ナル所得ニ對スル税デアル。(純益ノ一割二分五厘ノ率ニテ)(C)免税點ガ通例定メラルル所デアルガ、其ハ(1)丁抹四百五十磅(2)瑞西四百磅(3)にゆ

一、(イ) ーランド三百磅 (に) 露國ハ總利益ノ二百十一磅、超過利得ノ五十三磅 (ハ) 濠洲二百磅 (ヘ) 伊太利及和蘭ハ百磅、(ト) 瑞典五十八磅デアル。
 (六) 課税ノ方法 (A) 資本ニ對スル總利得ノ割合ニ應ジテ超過利得ノ累進課税ヲ爲スモノ——露國ニテハ超過利得ヲ確定スル前ニ他ノ諸税ガ先ツ控除サルル、ソシテ之ニ對シテ二〇、%ヲ課税シ、資本ニ對スル利得率ガ九、%以上ナレバ、超過利得ニ二一、%ヲ課税シ、一〇、%以上ナレバ超過利得ニ二二、%ヲ課税シ、……二〇、%以上ニハ超過利得ニ對シ四〇、%ヲ課税スル。利得税ト所得税ト本税トノ合計ニテ五〇、%ノ制限ヲ置ク。丁抹ニテハ會社ノ利得ガ株式資本ニ對スル八、%以下ナルトキハ超過利得ノ八、%ヲ課税シ、前者ハ——一〇、%ナルトキハ超過利得ノ一〇、%ヲ課税シ、……前者二〇、%以上ノトキ超過利得ノ二〇、%ヲ課税スル。他ノ場合ニツイテハ丁抹法ハ別ノ方法ニ依ル。伊太利デハ大體右ト同ナルモ、其ガ所謂超過累進ナル點ニ於テ異ル。即チ資本ニ對スル八一〇、%ノ利得部ニハ超過

利得ノ一二、%ノ割合ニテトリ、一〇——一五、%ノ利得部ニハ超過利得ノ一八、%、一五——二〇、%ノ利得部ニハ超過利得ノ二四、%、二〇——三〇、%ノ利得部ニハ超過利得ノ三五、%ヲトル。一九一六年一月以降ハ右ヲ二〇、%以上六〇、%ノ税率ニ變更シタ。西班牙モ類似デアル。次ニ(B) 資本ニ對スル超過利得ノ割合ニ應ジテ累進課税スルモノ——ハ例之、埃土利デ、此國デハ會社ニハ資本ニ對シ五、%以下ナル超過利得部ニ一〇、%ヲ課税シ、五——一〇、%ノ超過利得部ニハ一五、%……三〇、%以上ノ超過利得部ニ對スル、三五、%マデ課税スル。(C) 更ニ第三ハ標準利得ニ對スル超過利得ノ割合ニ應ジテ累進課税スルモノ——デ、例之伊太利デハ代理商及其他ノ小資本者ニツキ、右割合ガ一割乃至五割ナル超過利得ニ五、%ヲ課税シ、五割乃至一倍ニハ一〇、%……三倍以上ノニハ三〇、%トスル。此率ハ最近ニハ倍トナツタ。(D) 超過利得ノ大小ニ應ジテ累進課税スルモノ——ハ例之瑞典デ、其五六磅乃至二七二磅ニハ一二、%、二七二乃至五五

○磅ニハ一二、 $\frac{1}{100}\%$ …………一七七七八磅以上ニ
 一八、 $\frac{1}{100}\%$ ヲトル。丁抹デハ超過利得ガ八千冠以
 下ナルトキハ七千冠ノ控除、八千乃至一萬五千
 冠ニハ六千冠ノ控除、…………七萬五千冠ニ二千
 冠ノ控除、…………十萬冠以上ノ超過利得ニハ一
 ○、 $\frac{1}{100}\%$ 稅率ヲ無控除ニテ適用スル。埃土利ニテ
 ハ箇人ハ超過利得ノ第一ノ四一六磅ニ五、 $\frac{1}{100}\%$ ヲ
 課稅シ、各九三二磅毎ニ五、 $\frac{1}{100}\%$ ヲ増シテ、二〇、
 $\frac{1}{100}\%$ ニ及ビ、其ヨリ累進ヲ緩メテ最高四五、 $\frac{1}{100}\%$ ニ達
 スル。佛國ニテハ後ニイフヘキガ、其二萬磅以
 上ノ超過部ニ對スル五〇、 $\frac{1}{100}\%$ ノ稅率ハ今ハ六〇、
 $\frac{1}{100}\%$ トナツテ居ル。(E)超過利得ニ對シテ比例課稅
 スルモノ——ハ丁抹デ、其新會社ハ資本ノ五、
 $\frac{1}{100}\%$ 以上ノ凡ヘテノ利得ニ一〇、 $\frac{1}{100}\%$ ヲ課スル、合
 衆國ニテハ一二、 $\frac{1}{100}\%$ 、加奈陀及瑞西ハ一二五、 $\frac{1}{100}\%$
 和蘭ハ三〇、 $\frac{1}{100}\%$ 、にゅーじーらんどハ四五、 $\frac{1}{100}\%$ デ、
 濠洲ノハ第一期五〇、 $\frac{1}{100}\%$ 、其後ハ七五、 $\frac{1}{100}\%$ ト定マ
 ルデアラウ。——大抵ノハ以上ノ五方法ノ外ニ
 出デナイ。唯ダ佛獨ノ法ニツキテハ一言ヲ要ス
 ル。佛國ノハ最初ノ案ハ(D)法デアツタ。即チ四

〇〇、磅以下ノ超過利得ニハ五、 $\frac{1}{100}\%$ 四〇〇乃至
 二〇〇〇磅ニハ一〇、 $\frac{1}{100}\%$ …………二萬磅以上ニハ
 三〇、 $\frac{1}{100}\%$ トナツテ居タ。然ルニ豫算委員會ヲ通
 リタルトキニハ、(C)併用トナツテ現ハレタ。
 即チ超過利得ガ、標準利得ノ五分ノ一以下ナル
 トキハ五、 $\frac{1}{100}\%$ 、其第二ノ五分ノ一ノ部分ニハ一〇、
 $\frac{1}{100}\%$ 、斯クシテ、標準利得ノ五分ノ四以上ノ處ニ
 二五、 $\frac{1}{100}\%$ トナツタ。併シ法律トシテ確定サルルト
 キニハ之ヲ問ハザルコトナリ、二萬磅以上ノ
 ニハ五〇、 $\frac{1}{100}\%$ ノ一率トナツタ。獨逸ニテハ初メ
 ニハ五〇、 $\frac{1}{100}\%$ ノ一率稅ヲ提案シタガ、後變形シ
 テ(A)併用トシタ。即チ例之超過利得ノ資本ニ
 對スル割合ガ二、 $\frac{1}{100}\%$ 以下ナルトキハ、基礎稅率ハ
 一〇、 $\frac{1}{100}\%$ デ、此ハ他方資本ニ對スル總利得ガ一
 ○、 $\frac{1}{100}\%$ ヲ超ヘザル所ニ適用サルル。總利得ガ一
 ○、 $\frac{1}{100}\%$ ——一五、 $\frac{1}{100}\%$ ナルトキハ、右基礎稅率ノ一倍
 一割ノ稅率ヲ課シ、以テ總利得ガ三〇、 $\frac{1}{100}\%$ 以上
 ナルトキノ基礎稅率ノ一倍五割マデ右稅率ヲ累
 進スル。基礎稅率其モノハ、超過利得ノ資本ニ
 對スル割合ガ二〇、 $\frac{1}{100}\%$ 以上ナルトキニ於ケル三

〇、%マデ累進スル。斯クテ實際ノ最高稅率ハ四五、%ニ達スル。

右校正中 Sanders, The practice and law of excess profits duty. ナル一書ヲ入手シ、英國法ノ正文ヲ得タルニヨリ、左ニ英國ノ分ヲ追録ス。

- (一) 本稅採用ノ時、一九一五年
- (二) 本稅賦課ノ及フ時、一九一四年八月四日後、一九一五年七月一日前ニ終ル事業年度ニ及ブ。
- (三) 戰前ノ正常標準ノ定メ方、(A) 戰時超過利得ヲ計ル標準年ヲ戰前三年中二年ノ平均 (二年ハ納稅者ノ選擇) トシ、(B) 或ハ之ヲ會社六分、個人七分ノ利益率ニ代ユルコトヲ許ス。
- (四) 課稅利得ノ範圍、(A) 營利分科中、(1) 合衆王國內ノ農業 (2) 役人及使用者 (3) 利得ガ主トシテ人的力ニ係リ、資本的支出ガ不要又ハ比較的小ナル職業ヲ除キ、(B) 其利得ガ戰時中ニ生ズレバ足ルモノトシ、(C) 免稅點ハ二百磅トスル。
- (五) 課稅ノ方法、超過利得ニ比例課稅トシ、初年度五割、二年度六割、今ハ八割トナツテ居ル。